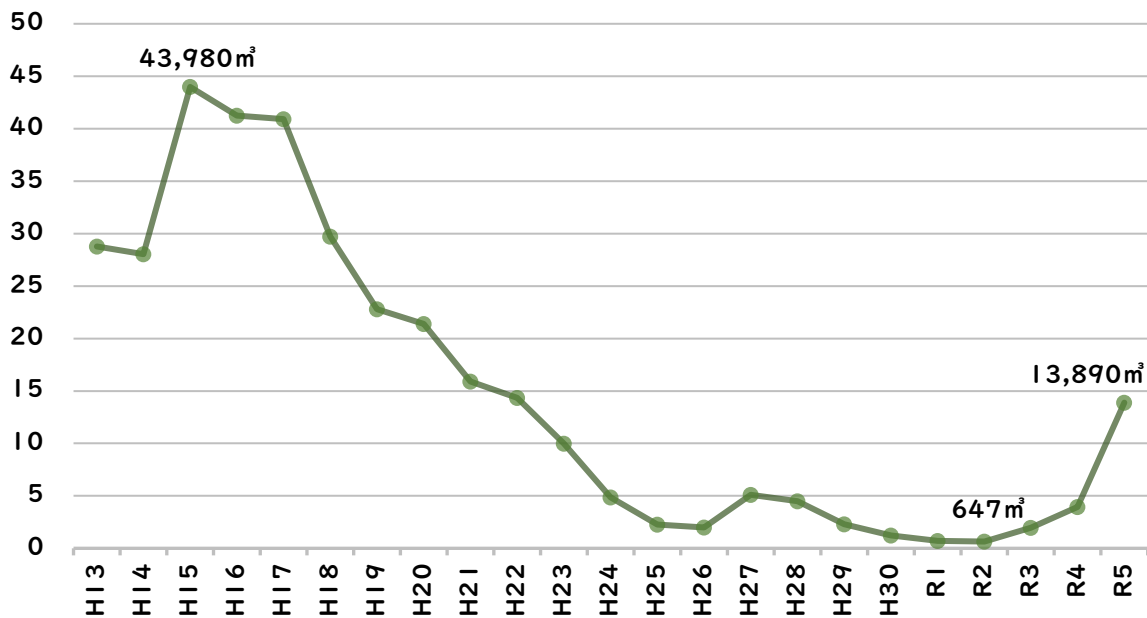


森林保全 (松くい虫対策)

松くい虫の被害によってリュウキュウマツが枯死し、貴重な木材資源に多大な被害を与えている。その被害量は、平成15年に約44千 m^3 とピークを迎えたが、関係機関が連携して実施した「松くい虫ゼロ大作戦（平成14～18年度）」により、被害量は増減を繰り返しながらも、令和2年には0.6千 m^3 まで減少しました。しかし、令和3年に久米島で被害が確認されてからは増加に転じ、令和5年は約14千 m^3 と、前年と比べて約4倍の被害量となっています。

松くい虫被害量の推移

(千 m^3)



「沖縄県の森林・林業（沖縄県）」

- ✓ 昭和48年に発見
- ✓ 平成15年をピークに減少傾向
- ✓ 令和3年に久米島での被害が確認されそれ以降増加傾向

被害状況



主な松くい虫被害対策

予防



農薬散布

◆地上散布

地上から動力噴霧機等を利用して、健康な松の樹幹部に薬剤を散布し、松枯れの原因となるマツノザイセンチュウの運び屋であるマツノマダラカミキリを駆除。



樹幹注入

◆樹幹注入

健康な松に穴を開け、線虫の侵入を防ぐ薬剤を前もって注入することで、松枯れを予防。

駆除



くん蒸処理

◆伐倒駆除

被害木を伐倒の上、薬剤の散布やくん蒸処理等を行い、松材の中にいるマツノマダラカミキリの幼虫等を駆除。



焼却処理

◆特別伐倒駆除

被害木を切り倒し、細かく碎いてチップにする破砕処理や、焼却処理を行うことにより、松材の中にいるマツノマダラカミキリの幼虫を駆除。

その他

◆衛生伐

松くい虫の繁殖源を除去し、松林の健全な育成、保全を図るため、造林地等において被害木を含む不良木等の伐採等を実施。

★松くい虫の被害からリュウキュウマツを守るため、被害発生メカニズムや現場の状況に合わせた効率的な予防対策や被害木の駆除等が行われています。